條約第一號

朕明治二十七年七月十六日大不列顛國倫敦ニ於テ朕カ全權委員ト大不列顛國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

明治二十七年八月二十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
外務大臣　陸奥宗光

通商航海條約

日本國皇帝陛下及大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スルヲ所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決

定シ之カ為メニ日本國皇帝陛下ハ英國駐劄帝國特命全權公使從二位勲一等子爵青木周藏ヲ、大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣ガータ|勲章ノナイト、ゼー、ライト、オノレーブル、ジョン、キムバーレー伯爵ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ住居スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ為メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク、又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人辯護人及代人ヲ撰擇シ且

使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルヽコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由及法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルヽ所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ

享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ内國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租税ヲ納メシムルヲ得ス

第二條

両締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍海軍護國軍民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦斂或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第三條

両締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

両締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生産物製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業

ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ為シ或ハ
代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテ之ヲ為シ
或ハ外國人若ハ内國臣民ト組合ヲ結ヒ
テ之ヲ為スモ隨意タルヘク又必要ナル
家屋製造所倉庫店舗及附屬構造物ヲ所
有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居
及商業ノ為メニ土地ヲ借受クルコトヲ
得但シ内國臣民ト同樣其ノ國ノ法律警
察規則及税關規則ヲ遵守スルヲ要ス
該臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ谷地諸港

及諸河ニシテ外國通商ノ為メ開カレ又
ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ
自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテ
ハ政府官吏公吏一私人或ハ會社若ハ何
等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利
益ノ為メニ課セラルヽ所ノ税金或ハ取
立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セ
ス内國臣民若ハ最惠國民或ハ人民ノ拂
フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノ
ヲ拂フコトナク内國臣民若ハ最惠國臣

民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ但シ常ニ各其ノ國ノ法律勅令及規則ニ從フヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ為メニ供スル家宅製造所倉庫店舗及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入搜索スヘカラス又帳簿書類或ハ簿記帳ヲ檢査點閲スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ハ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國

ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ税ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税ヲ課セラルヽコトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ末段ノ取極ハ人畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シテ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ税金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ

輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過稅ハ免除セラルヘク又倉人奬勵金便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ全ク内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦大不列顛國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ大不列顛國ノ船舶

ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大不列顛國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトヲ問ハス必ス之ヲ施スモノト

ス

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト大不列顛國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ締盟國ノ一港クルト第三國ノ一港クルトヲ問ハス締盟國ノ版圖內ニ於テハ之ニ課スル同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金拂

戻ノコトヲ以テスヘシ

第九條

政府官吏公吏一私人會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラルヽ所ノ噸稅港稅水先案內料燈臺稅檢疫費其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質並ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船舶一般若ハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖內ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港海灣船渠川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ內國船舶ニ許與セサ

ル特典ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十一條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル大不列顛國臣民又ハ大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル日本國臣民ハ此ノ事項ニ關シテハ各右法律勅令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スヘキモノトス

大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタ

ル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル大不列顛國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル為メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及税關規則ニ從フヘキモノトス

但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄ノ通リ大不列顛國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス尤大阪新瀉及夷港ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ為メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ内國船舶ノ拂フヘキ税金ノ外何等ノ税金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ艤裝ヲ為シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船

長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル為メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及税目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀬ニ乗上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ其ノ事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事領事副領事又ハ代辨領事ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最近地方ノ總領事領事副領事又ハ代辨領事ヘ通知スヘシ

日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乗上ケタル大不列顛國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律勅令及規則ニ從テ之ヲ為スヘク又相互ノ主義ニ基キ大不列顛國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乗上ケタル日本船舶ニ關スル一切ノ救助ノ處分ハ大不列顛國法律勅令及規則ニ從テ之ヲ為ス

ヘシ

右難破若ハ乗上ケタル船舶並ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物並ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金並ニ該遭難船内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事領事、副領事或ハ代辯領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費並ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ為メニ通關手續ヲ為スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費

ノ爲メニ賣捌クノ場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ輔助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右樣ノ輔助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十三條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又大不列顛國ノ國法ニ從ヒ大不列顛國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ大不列顛國船舶ト見認ムヘシ

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ自國ノ脱船人ヲ取戻スタメ法律ノ許スト所ノ輔助ハ之ヲ地方官ヨリ受クヘキモノトス

但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脱船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十五條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十六條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス

然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及意匠ニ關

シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十八條

大不列顛國政府ハ同政府ニ關スル限ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國地方組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ之ニ關シテ其ノ地方施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若ハ財産アルトキハ之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地内ニテ現ニ因テ以テ財産ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財産ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲモ附セサルヘシ但シ借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本國當該官吏ヲ以テ之ニ代ユ

ヘキコトヽ知ルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無借料ニテ既ニ貸與シタル各地所ハ永代ニ保存セラルヘシ且該地所ニシテ最初貸與シタルトキノ目的ニ使用セラルヽ限ハ總テノ租稅及徵收金ヲ免スヘシ但シ土地收用權ニハ從フヘキモノトス

第十九條

本條約ノ規定ハ法律ノ許ス限ハ大不列顛國皇帝陛下ノ殖民地並ニ其ノ海外領地ニ適用スヘシ但シ左ニ列記スル所ハ此ノ限ニ在ラス

印度

加奈太領地

ニユーフワウンドランド

喜望峯殖民地

ナタル

ニユーヽサウス、ウエールス

ヴヰクトリヤ

クヰンスランド

タスマニヤ
南濠太利
西濠太利
ニユーシーランド

然レトモ東京駐劄大不列顛國皇帝陛下ノ代表者ヨリ本條約批准交換ノ日ヨリ二箇年内ニ本條約ノ規定ヲ前記ノ殖民地若ハ領地ノ孰レヘナリトモ適用スヘキ旨ヲ通知シタルトキハ之ヲ適用スヘキモノトス

第二十條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル嘉永七年八月二十三日即千八百五十四年十月十四日締結ノ約定慶應二年五月十三日即千八百六十六年六月二十五日締結ノ改税約定安政五年七月十八日即千八百五十八年八月二十六日締結ノ修好通商條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無

效ニ歸シ隨テ大不列顛國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ大不列顛國臣民カ享有セシ所ノ特典特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十一條

本條約ハ調印ノ日ヨリ少クモ五箇年ノ後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セント欲スル旨ヲ大不列顛國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此ノ通知ハ調印ノ日ヨリ四箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ

十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セントヽ欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十二條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本日ヨリ六箇月以内ニ可成速ミ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十七年七月十六日倫敦ニ於テ本書二通ヲ作ル

青木周藏 印

キムバーレー 印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト大不列顛國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメンコトヲ欲シ明治二十七年七月十六日倫敦ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

嘉納批准ス

神武天皇紀元二千五百五十四年明治二十七年八月二十四日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣陸奥宗光　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及大不列顛愛蘭國英印度國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ本書附屬輸入稅目ハ兩締盟國間ニ現存スル

所ノ安政五年條約ノ有效ナル間ハ
其ノ第二十三條ノ規定ニ準據シ又
右安政五年條約ノ無效ニ歸シタル
後ハ本日調印シタル條約第五條及
第十五條ノ規定ニ準據シ大不列顛
國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産若ハ製
造ニ係ル物品ニシテ該稅目ニ掲ク
ルモノヲ日本國ヘ輸入スル場合ニ
之ヲ適用スルモノトス但シ日本國政
府ニ於テ純良ナラサル藥材、製藥、食

物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、
紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫眞
及其ノ他總テ猥褻ノ物品、日本帝國
ノ專賣特別商標及版權ニ關スル法
律ニ違背スル物品又ハ其ノ他衛生、
公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘ
キ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止ス
ルノ權利ハ本議定書又ハ其ノ附屬
稅目ノ爲メ制限セラルヽコトナカ
ルヘキモノトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

該税目ニ定メタル從價税ハ之ヲ實
行シ得ヘシト認メラルヽ限ハ本議
定書ノ日附ヨリ六箇月間ニ兩國政
府間ニ締結セラルヘキ追加條約ヲ
以テ從量税ニ換算スヘシ本議定書
ノ日附ヨリ前六暦月間ニ於ケル日
本國税關報告ニ載セタル平均價格
ニ仕入地、産出地若ハ製造地ヨリ陸
揚港ニ至ル迄ノ保險料及運賃ヲ加
算シ又手數料アルトキハ之ヲモ加

算シタルモノヲ以テ右換算ノ基礎
トナスヘシ若又追加條約ニシテ前
記税目ヲ實施スル爲メニ定メタル
期限ヲ終ル迄ニ實施セラレサル場
合ニハ其ノ間ハ前記ノ税目ノ末尾
ニ掲ケタル規定ニ從ヒ從價税ヲ徴
收スヘシ

右税目ニ掲ケサル物品ニ對シテハ
前項ニ記載セシ期日ヨリ前項ニ記
載セシ如ク各安政五年條約第二十

三條及本日調印シタル條約第五條及第十五條ノ規定ニ準據シ日本國ニテ其ノ時現ニ行ハルヽ所ノ普通國定稅則ヲ適用スルモノトス

大不列顛國臣民カ日本國ニ輸入スル貨物及商品ニ對シ現今日本國ニ於テ實施スル所ノ輸入稅目ハ前項ニ記載セシ各稅目實施ノ日ヨリ無效ニ歸スヘキモノトス

尤此ノ外總テノコトニ付テハ現行條約ノ規定ハ本日調印シタル通商航海條約ノ實施セラルヽニ至ル迄ハ無條件ニテ保續セラルヘキモノトス

第二　日本國政府ハ大不列顛國臣民ニ對シ內國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即大不列顛國臣民カ在東京同國公使若ハ日本國開港場ニ駐在スル大不列顛國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持

シテ出願スルニ於テハ十二箇月以内ノ期限間國内何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地方長官ヨリ交附スヘシ但シ帝國ノ内地ニ旅行スル大不列顛國臣民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保續スヘキモノト知ルヘシ

第三　日本國政府ハ日本國ニ於ケル大不列顛國領事裁判權ノ廢止ニ先タチ工業ノ所有權及版圖ノ保護ニ關スル列國同盟條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第四　若日本國ニ於テ何時ニテモ其精糖ノ産出若ハ製造ニ對シ增稅ヲ課スルコトヲ必要ト見做ストキハ其ノ增加セシ内國稅ヲ課スル間ハ日本國ヘ輸入スル所ノ大不列顛國ノ精糖ニ對シ前記内國稅ト同額ニ增加スル所ノ關稅ヲ課スルコトヲ得ヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ承

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

諾ス

但シ右ニ關シ大不列顛國ノ精糖ハ常ニ最惠國ノ産出若ハ製造ニ係ル精糖ト同一ノ取扱ヲ享ケヘキモノトス

第五　左ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批準セラルヽトキハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十七年七月十六日倫敦ニ於テ本書二通ヲ作ル

青木周藏印
キムバーレー印

附屬稅目

品目	從價稅率
護謨製品	百二付十
セメント	同五
綿織絲類	同八
綿織物類、純綿ト麻亞麻若ハ毛絲又ハ他ノ交セモノアルトヲ問ハス但シ綿ノ重ナル	同十
窓玻璃片（尋常ノ）甲 無色及無著色ノ	同八

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

乙 有色、著色若ハ砂磨ノ　同　十
帽子（氈帽トモ）　同　十
乾藍　同　十
塊鐵及塊鋼　同　五
道鐵及道鋼　同　五
條鐵、條鋼、竿鐵、竿鋼、板鐵、板鋼　同　七分ノ一
葉鐵（チンドプレーツ）　同　十
電鍍板鐵、板鋼　同　十
筒鐵、筒鋼、管鐵、管鋼　同　十

鉛（塊錠ノ別ナシ）　同　五
靴底皮　同　十五
他ノ熟皮　同　十
麻織絲類　同　十
麻織物類　同　五
水銀　同　五
乳膏、乳粉　同　十
鐵釘類　同　十
無味香油　同　十
色油　同　十

印刷料紙	同	十
精糖	同	十
硝石	同	五
鐵螺旋釘及鐵牝牡螺旋類	同	十五
絹綿繻子	同	十
錫（塊錠ノ別ナク）	同	五
葉錫（チンプレーツ）	同	十
無味香蠟	同	五
電線	同	五
鐵線、鋼線及徑一因ノ四分ノ一ヲ超ヘサル細竿鐵細竿鋼	同	十
毛織絲類	同	八
毛織物類、純毛ト他ノ交セモノアルトヲ問ハス但シ毛ノ重ナル其ノ他本税目ニ掲定セサル織絲類	同	十
亞鉛（塊錠ノ別ナク）	同	十
板亞鉛	同	五
從價税算定ノ規定	同	七二分ノ一

此ノ税目ニ從ヒ輸入物品ニ課スヘ

キ從價税ハ其ノ物品ノ仕入地、産出地、若ハ製造地ニ於ケル原價ニ其ノ仕入地、産出地、若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ保險料、運賃ヲ加算シ又手数料アルトキハ之ヲモ加算シテ算定スヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/